

| | |
|---|-----------------------------|
| <p style="text-align: center;">JR津田沼駅南口開発の進展に伴う児童増加対応について 地域住民対象説明会 議事録（要約）</p> | |
| 開催日時 | 平成25年10月22日（火曜） 15:00～16:30 |
| 場 所 | 谷津コミュニティセンター |
| 出席者 | 市瀬学校教育部参事、島本学校教育部主幹 |

島本主幹 （JR津田沼駅南口開発の進展に伴う児童増加対応について、資料に基づいて説明）

【質疑応答】

質問者 今年の12月までにまとめるというのは早過ぎると思う。この問題は、過去からずっと放置されていたというか、完全に内容が出た問題、そちらにもあるということで起こった問題を、この短期間で結論を出して進めていくというのは、余りにも早いということは、多分、皆さん、思っていると思う。もっと議論を重ねたり、他の方法を考えたり、先ほどの案がどういう形で出てきたのかというのは、私もわからないけれども、人数がわからないエリアがあるとか、そんな状態のままで12月に結論を出そうというのは、余りにも早過ぎると思うが、このあたりは、どういう考えなのか。

回答者 今の御質問は、時期的な面で、12月までというところは早過ぎると。これは、これまで説明する中でも御指摘いただいている。

そういった中で、12月の段階で最終決定ということではないまでも、通学区域の変更ということであれば、時間的な猶予という部分もつくれる推計の推移であるが、仮に通学区域を変更しない場合には、今のこの案の中で言うところの高学年を分離するというところ、この高学年分離についての考え方、こういった部分については、さまざまな御意見をいただいているところである。

ただ、新設校の設置というような御意見もいただいている。そういったことに対応するには、新しい校舎をつくるということについては、最低でも、設計を2年、建築を2年見ないとならないという状況からすると、仮に通学区域を変更せずに高学年を分離するという方向とした場合についても、来年度の予算では設計費用を見込んで設計を進めないに対応し切れないとい

うようなこともあり、一定の方向というところでは12月で一旦、整理をさせてもらっている。

この次の説明の段階で、皆さん方からまたどのような意見が寄せられるかということもあるが、12月の段階では一定の方向を見出していかなければならないというような考え方で進めさせていただいているということで御理解いただきたい。

質問者 12月の段階は、どういう形になっているのか。例えば、最終的には今のような2つの案になっているとか。

回答者 再度説明をさせていただく12月の段階では、案の絞り込みとあわせて中で、概ねこの方向というところで、それで通学区域の審議会等にも諮問していこうというような流れになろうかというふうに考えている。

質問者 私は、代々、谷津一丁目に住んでおり、当然、子供も谷津小に通わせるつもりで、こちらのほうに住んでいる。実家は谷津一丁目、もともと谷津小学校に通学できる区域で、開発されている土地を持っていた関係で、今後、奏の杜三丁目に引っ越す予定。やはり、伝統ある谷津小学校に通いたいという思いが非常に強い。個人的な思いではあるけれども、そういう考えの基、ずっとこの土地に住んできた。この開発にも、当然、人口増加というので、市の方々には、税金という部分に対しては肯定している立場になるのかなとは思う。

今、いろいろな通学区域の案を見ると、結構、奏の杜三丁目と一丁目、他の小学校に移るといような案を見て、それはどうなのかなというか、個人的な意見にはなってしまうが、そう思っている谷津一丁目の方々も非常に多いと思われる。何回か回を重ねる上で、そういった御質問はあったか。

回答者 対策案の中で示している区割り、谷津一丁目あるいは奏の杜三丁目という、主要道路でというような分け方をとっている関係上、そういう区割りが多くなっているということから、同じ谷津一丁目に居住する方から、不公平感というような立場での御指摘、御意見というのは、これまでもあった。

質問者 それで、代案を考えさせていただくというのであれば、谷津小学校の体育館は、非常に古いと思う。実際、何回か入って、老朽化ということを非常に感じるけれども、私は非常に素人なので、税金のことであるとか、どのぐらいいたら校舎を建替えるとかはわからないが、ここにはない案を出すとする

ば、谷津幼稚園は移転していただくことになってしまうが、谷津小学校の体育館部分を校舎に建替えて、谷津幼稚園側の土地を体育館にするとか、あとは、谷津小学校の校庭の広げた部分。あそこは、やはり、校庭のままなのか。形としては、非常にいびつだと感じる。お家が1軒残っているが、あそこは、最終的にどうなるのか。

回答者 現在、14号からJRへつながる道に隣接する谷津小学校のグラウンドを一部削るというような形で、土地計画道路の整備が進行中である。それによって削減される面積があるので、これまでの学校運営を維持するために、隣接する3軒の土地を買収させていただいた。しかし、1軒、プール側の今まだ残っているところは、地権者さんの都合により、年度内完了ができないというようなことから、その1軒も既に契約は済ませているので、今年度の中で整備までは行かない可能性が高いが、転居後に、解体整備するという形で進めている。

質問者 幼稚園を小学校の校舎として使う。それでも足りないということだけでも、プラス、そうやって広がった土地の一部を使ってとか、幼稚園の運動場の先に体育館の場所を変えて、その分、教室を広くするとか、正直、向山小とか、谷津南というのは、全く私の中では考えていない。今でも子供たちは、将来、一緒に友達同士で谷津小に通うんだよということで友達づくりをさせていたので、他校に通うことは考えていない。なので、幼稚園の校舎を使うプラス、もう少し増築できないかなと思うが、いかがか。

回答者 増築、増築という形は、なかなかとりづらいただろうと思われる。しかしその中で、谷津小学校自体の老朽化に伴う施設の更新と、御意見にあったような増築での対応という部分が、どうにか組み合わせられないだろうかというような考え方はある。やはり、谷津小学校に通わせたいという思いの部分には、我々としてもどのように寄り添っていけるのかということとはとらまえないといけないというふうに感じている。

ただ、一方で、恐らく、向山小学校の魅力という部分を余り見せることができていないのだろうなということも考えなくてはいけないと我々は思っている。向山小学校の校舎が見た感じが暗い、あるいは道路が暗い、それと、義務教育であるので、どの学校も均等にひとしく教育を与えなければならないというところであり、それに加えた中で、何か対応というものが、この先、つくっていく必要があると考えている。

ただ、今の御意見とすれば、谷津小への思いということで、御意見中の一

つとして、それらも考慮した中で、検討をさせていただくということで御理解いただければと思う。

質問者 現在の通学区域図で、向山小の範囲は、JRを跨いで南北にあるという理解でよいか。結構大きい道路だし、今の段階で危険な感じはないのか。

私は、浦安に住んでいたけれども、家の前の道路が年に1回ぐらい人が亡くなるような道路で、小学生とかも亡くなったりするもので、それが嫌で少し田舎に引っ越そうと思って、安全なところをと考えて引っ越してきた。そのため、大きい道路を小学校1年生が渡って通学していくことなどについて心配なのだが、今の通学区域内で事故とか、その状況を聞いてみたい。JRを跨いでいる案もあったので、通学区を変更するのであれば、なるべく危なくないほうがいいと思ったのだが、今の通学路の現状はどうか。

回答者 向山小学校区は、主要道路（国道14号線）を南北に行き来するということの対応が一つあるという中であるけれども、現状、大きな事故についての報告は特に聞いてはいない。

しかしながら、主要道路という部分についてはもう一つ、例えば、今、谷津一丁目のエリアから向山小へといった場合の懸念が示されているのは、京成線の踏切ということに加えて、ここでの通学上の事故ということは確認していないが、道路上の歩道の狭さということの安全性の点で指摘を受けており、何かしらの対策を講じる必要があると。

逆に、谷津小学校脇の横断歩道、その辺において、朝の時間に高齢者が乗った車が事故を起こしたという事例は伺っているという状況である。

質問者 説明会の回覧が周知徹底されていなかったと思う。

それから、先ほど、向山小は特色がない印象を与えているというお話があったが、向山小学校は、今後、どのような特色を持った小学校にしていくのか。

やはり、市内どこの学校に通っても、こんないい小学校だよ、あんないい小学校だよというのが、私は一番だと思うが、この地域は何々小学校、どこそこの地域は何々小学校というようになっていると感じる。まず、そこが一番問題だと思うので、今後、向山小学校はどのような方向性で教育委員会のほうは考えているのかということをお聞きしたい。

それから、私の息子夫婦が、谷津一丁目だと谷津小学校に通える、一中に通えるということで引っ越してきたが、その小学校に通うことがもしかしたらできなくなったときの鬱憤はどこに持っていけばいいのか。

そして、やはり市として、子供のことを第一に考えていなかったというよ
うな、非常に不思議な気がする。

それからあと、開発に当たっての方向性を見余った、見通しを見誤った、
そのときの責任者の方が、どうしてこの場に出て説明をなさらないのか。そ
ういうことに、市に対して、役所に対してとても不審を感じている。

回答者 今回の説明会の周知不足について、配慮が足りなかったというところは、
大きく反省している。次回の説明会については、きちり対応させていただ
こうということで進めたいと思う。お詫び申し上げます。

習志野市の場合、どこの学校もそれぞれ特色を持った学校づくりというよ
うな形で展開させていただいており、向山小学校については、現在、児童数
が少ないという状況の中で、いわゆる1年生から6年生までの異学年交流と
いう部分を中心に取り組んでいる点であったり、体力づくりとしてマラソン
に取り組んでいることであったり、少ない子供たちの中でいかによりよい教
育を実践していくかというようなことを一つの特色として捉えている。今
後、仮に児童を谷津小だけではなく、施設規模に応じて周辺の学校もより活
発な教育活動を展開させるというような中でとらまえたときには、向山小
は、これまでに加えて、それに応じた魅力ということを学校教育という点か
ら、どのような展開をさせていくかということについては考えていくとい
うようなことで、現状においては捉えている。

質問者 どの小学校も魅力のある小学校にしてほしいなと思います。

回答者 現在も、我々としては、どの学校も魅力があるという形の中で進んでいる
という認識はあるけれども、その魅力が外に伝わっていないのであろうとい
う点については、各校すべからず、同じように取り組んでいく必要があると
いうように考えている。

質問者 幾つかの対策案があるけれども、それぞれに必要な予算というのは変わっ
てくると思うが、それを踏まえた上で、12月にある程度決定していくとい
うことになると思うが、全ての案に対して、必要な予算というのはちゃんと
とれているのか。

回答者 財政面という部分も、次回の説明の中で対策に必要な経費は皆様に御提示
しようということで考えている。

それぞれの対策に応じて、それでいくということになれば、おのずと、そ

の予算については獲得していくということは、我々の使命であろうというふうに考えている。

質問者 その中で選ばれた対策案というのが出たとして、必ず必要な予算はとれるということでもいいのか。

回答者 今後、今回説明した対策案に対する評価を行い、それで、対策案を絞っていく、或いは修正できるところは修正をしようということも視野には入れている。そこで必要となる予算は、毎年度の予算編成の中で確定していくことであるけれども、そういったものを今の段階で確保できるというような回答はできないが、少なからず、必要となる予算については確保しなければ、今回の事案に対応することはできないということは、現状においても全庁的には認識されていることである。毎年度の予算編成の中で教育委員会とすれば必要な予算ということは十分に説明を尽くして対応していくということになろうと考えている。

質問者 我々が心配なのは、教育の質というのももちろんそうだけれども、学区が変更になったときの通学路の安全性というのは非常に重要なことだと思う。そこで、仮に、遠くに行くことになってしまった場合に、通学路の安全性というのが課題として上がっているけれども、その予算がとれなかったために事故が起きたとか、そんなことは絶対にあってはいけないと思うが、安全対策というところの課題について、今、どういう対策を考えているのか。

回答者 安全対策の一つとしては、谷津一丁目から向山への沿路における踏切を横断に関して、あそこの道路の上に歩道橋をかけたりとか、歩道を広くするとか、地下へ通すといったことは現実的ではないと考えている。

そういう中で、通学路への人員等の配置であるとか、車の速度制限であるとか、関係課と協議をしている段階であり、現段階で、具体的にこれということはお答えできないが、どのように対応できるかを検討している。

質問者 今、それが答えられないというのは、おかしいと思う。

参考案及び対策案というのをつくっておきながら、それで、課題というのもわかっているのに、何をしたらいいのかわからない。人を立てたらいいのか、橋をつくるのか、それもできない。であるのであれば、こんな対策案は要らない。要は、安全が確保されていないようなものではないか。だったら、通学区の変更だとかはなしにしてもらいたい。

回答者 今回の説明会においては、推計の結果と現状がこうであり、どのような対策案が考えられるのか。通学区域を変更するという案の場合は、それぞれこういう課題がある。あるいは、周辺校の学級規模としてはこのような状況であるという、現状の御説明を主としている。安全対策として、具体的にお話をしてほしいということも承っているところであるが、それらを含めて御意見を承った中で、次回の中で整理し、お話をさせていただくということで御理解いただければと思う。

質問者 今回、案をいろいろと示していただいているけれども、やはり、単なる数合わせなのだなというふうに驚いたというのが正直なところである。

子供の教育環境というところを本当に第一に考えていくということが重要なのかなと思っており、先ほど来、話が出ている安全面は、特に大事なのかなというふうに思っている。何が主で、何が従かというようなところは、非常に発想として逆という感じがしてならない。

今の案では、現在の開発計画、都市計画ありきというようなところで、それに合わせて子供をがちゃがちゃ動かすというようなところで、遠方の学校に行かせるというのは異常な事態なのかなというふうに思っている。

予想が違ったのであれば、都市計画自体を見直していくということは全くお考えにないのかということ、ひとつお伺いしたい。開発を一時遅らせるであるとか、そういったことによって、小学校に入ってくる小学生を平準化させるというようなこともできると思う。

そもそも、この問題は非常に大きいので、本日、来ていただいている教育総務課の方だけで対応できるような問題ではないのかなと。やはり、全庁的に優先して取り組んでいただくような課題であると思っている。

また、仲よし幼稚園跡地が売却され、マンションが建つというような情報もある。一方で学校の教室が足りないといっているのに、そこに何でマンションを建てるという計画を発表するのかという、全く全庁的に取り組むような意思がないのかなというように見えるようなところもあるので、そのあたりは、非常に発想としてどうなのかというように思う。

また、学区の変更ということが前提になっているように感じる。奏の杜ができる前に、周知期間をおいて学区の変更ということであれば、まだ理解できる範囲だと思うが、周知期間を、小学校は6年間あるから、6年とか10年とか、そのぐらいの期間をおいて変更するということでは理解できるが、今の段階で学区の変更というのは、非常に将来にわたって禍根を残すのではないかというふうに思う。そういった意味からも、学区の変更というのは、

今となっては非常に難しいのかなというふうに思っている。

一方で、先ほど、少し話があったけれども、谷津小学校が非常に老朽化してきていると。先般、津田沼小学校が建てかえを行ったところであるが、谷津小学校も、当然、建てかえというところは出てくると思う。これで、また周りにどんどん建物が建って建替えとなったときに、建替えようにも建替える用地がないというようなことも、このままではあるのかなと非常に危惧している。建替えが数年後にあるのであれば、それも含めたところで、今の学区を変更することなく、新しい校舎で対応できるというような案をぜひ入れていただくということが可能かどうか、これが2点目の質問としてお願いしたい。

回答者 都市計画事業の開発を遅らせることはできないかということについて、都市計画の35ヘクタールの事業については、地権者の方たちが集まって組合をつくり、そこで事業を行っている。それに関して、要は、都市計画道路がここに3つあり、そこをあわせて開発するというので都市計画している。この全ての土地がほとんど組合の事業でやっており、国、県、市は、それに対して区画整理事業ということに対して補助金を出している。これをとめるとか、そういうことはできない事業である。

それと、もう一つ、谷津小の建替えについては、様々な意見をいただいている。それも、今度、皆さんにお示しするときに、その案を出さなくてはいけないのかなということで、今、動いている。

質問者 谷津小学校はいつ建替える予定なのか。

回答者 公共施設再生計画の中では、谷津小学校は第2期ということで平成31年度から36年度までの間に建替えるということになっている。

ただし、教室不足というのがある中で、それを前倒して建替えをするということも考える。計画の中で、今、建替えについても検討しているところである。

質問者 仮校舎だとか、そういったものも必要になってくると思うので、今、近隣公園とか、そういった大きな土地が空いているときに、そういった対応を早目にやっていただければというふうに思っている。現に、そういった案を入れていただければと思うので、よろしくお願いたしたい。

質問者 推計についてお尋ねしたい。

今回、奏の杜のマンションが建ってから、当初の想定以上に子供が多かったということで、推計については業者のほうでされたということだが、奏の杜のマンションの今建っているものと、今後建設されていくマンションは、多分、奏の杜と同じような集団というか、普通の集団よりは子供が多目になると思うけれども、今の新しく越してきた人と同じような人だろうというような推計で出されているのか。

回答者 お見込みのとおりであり、今後の750世帯の仲よし幼稚園跡も含めて、721世帯のマンションと同一の傾向を持った世帯が入居を、同様の傾向の世帯が入ってくるだろうという前提のもとで推計させていただいたという結果である。

質問者 私は、そのマンションの住民なのだが、今度の新しいマンションや、今後、開発区域に住まれる方に対しては、小学校問題があって、まだどこに行くか決まらないというようなことを周知される予定か。

回答者 現在、着工を進めている869戸のマンション及び今後、開発を進めるという仲よし幼稚園跡地の双方のディベロッパーさんには、現在、谷津小学校に通えるということは明言できる状況ではなく、通学区域の変更も視野に検討しているという状況のお話は、既に伝えている。

質問者 教室の不足について、15年ほどで、その後、また人数が減っていくという推計だと思うが、それを考えると、学区の変更はやむを得ないのかなと思う。建物を建てて、いろいろお金をかけてやってまで15年をしのぐというのはどうなのかなと思うが、今、奏の杜三丁目に住んでいて、向山小に行けという案が多いので、正直、反対している。

反対の理由としては、やはり、向山小に暗いイメージがある。通学路が暗い、踏切がある。通学路だけではなくて、子供同士が遊ぶときに、やはり、同じ学校の子と遊ぶので、放課後に遊びに行き、帰ってくる時は、夕方、暗くなってから、暗い踏切を渡るとか、そういった心配もあるので、人を配置して対応するとかも、かなり難しいかなと思う。

あと、魅力がないという話があったが、英語教育とか、そういったところに力を入れてくれると、親としても通わせたいなと思うようになると思う。

高学年を分離するという話があったので、それもいいのかなとは思ったが、なぜ第一中学校のところに建物を建てて分離するという案しかないのか

など。ほかの小学校とかは教室が空いていると思うけれども、第一中学校に高学年を分離するのは何故か。

あともう1点、幼稚園をどうするのかという話が出ていたかと思うが、幼稚園児の体力とかを考えると、やはり、向山小のところまで園児を通わせるというのはかなり難しいかなと思う。なので、谷津幼稚園の移転のほうがいいなと正直思った。

谷津小の校舎の足りない分はどうするかという話だが、先ほど、体育館を壊して校舎にすればいいんじゃないかという話があったと思うけれども、私もその意見に賛成で、今、プールがあるところをプールと体育館一体のものにできないのかなと、谷津小、一中、あと谷津幼稚園、保育園も兼ねた計画というのをもっと明確に出してほしい。

回答者 第一中学校の敷地に高学年分離することについては、使える敷地というところは、今、教育委員会で管理を任されている学校敷地以外にはないということが一つある。そういう中で、高学年分離とした場合の建設地を第一中学校にしたということについては、発達段階というところの中で、2年後には中学生になるというところまでとらまえたときに、中学生とともに生活するというようなことをしておくということが一つメリットとしてあるのではないかということで、第一中学校というところではある。

ただ、その場合の課題というのも一方ではあるということも十分認識しており、考え方としては、中学へ進学するということをとらまえた中での第一中学校との併設という考え方である。

質問者 そうすると、向山小、谷津南小の高学年は、中学生との交流がなかったということで、そこでも問題が起きてくると思うので、そこも考えていただきたい。

回答者 今おっしゃるとおりで、弊害の一つとして、第一中学校へ進学する他の小学校というところの兼ね合い、そういったものも十分考えなければならないということでは受けとめさせていただいている。

～閉会～